



ヤドカリのじゅ命は何年なの

3～4年といわれている

日本でふつうに見られるホンヤドカリのメスは、貝がらの中に卵を産みます。やがて卵はかえり、1か月ほど殻の中で育ち、「ゾエア幼生」となります。ここまで育ってから、海中に放たれます。幼生は、プランクトン生活を1か月ほどした後、小さなヤドカリとなって海底生活をはじめます。小さいあいだは、1か月に1回程度脱皮して大きくなりますが、成熟したら1年に2～3回しか脱皮しなくなります。じゅ命は3～4年といわれています。

いろいろなヤドカリ

ヤドカリはエビとカニの中間の生き物で、腹部を貝がらに入れて生活します。ほとんどのものは巻き貝を利用しますが、中には、カイガラカツギのように、2枚貝の片方の貝がらを使うものもいます。また、オカヤドカリの仲間のヤシガニは、小さいうちは、貝がらを背負いますが、大きいものは貝をつけません。世界に約700種、日本には100種類ほどがいます。じゅ命をふくめ、生活の仕方は、それぞれちがいます。(監修・杉浦 宏)

